

## アユの漁獲および資源の状況について

### 1. アユ苗の漁獲状況

- 12月5日から琵琶湖でのアユ漁(エリでのヒウオ漁)がスタート。
- 例年は12月1日からであるが、台風被害により4日遅れ。
- アユ苗注引量は22,200kgのところ、12月中には充足できず、1月15日(漁開始から42日目)まで操業し、累積漁獲量が20,247kgで12月期のアユ漁は一旦休止。
- 注引量に対する充足率は91.2%で100%に達していないが、県内業者は一定充足していることが県漁連により確認されている。
- 漁獲量は不漁であった昨年の2.3倍であるが、過去10年間では2番目に低調。
- エリによるアユ漁は2月10日から再開予定。

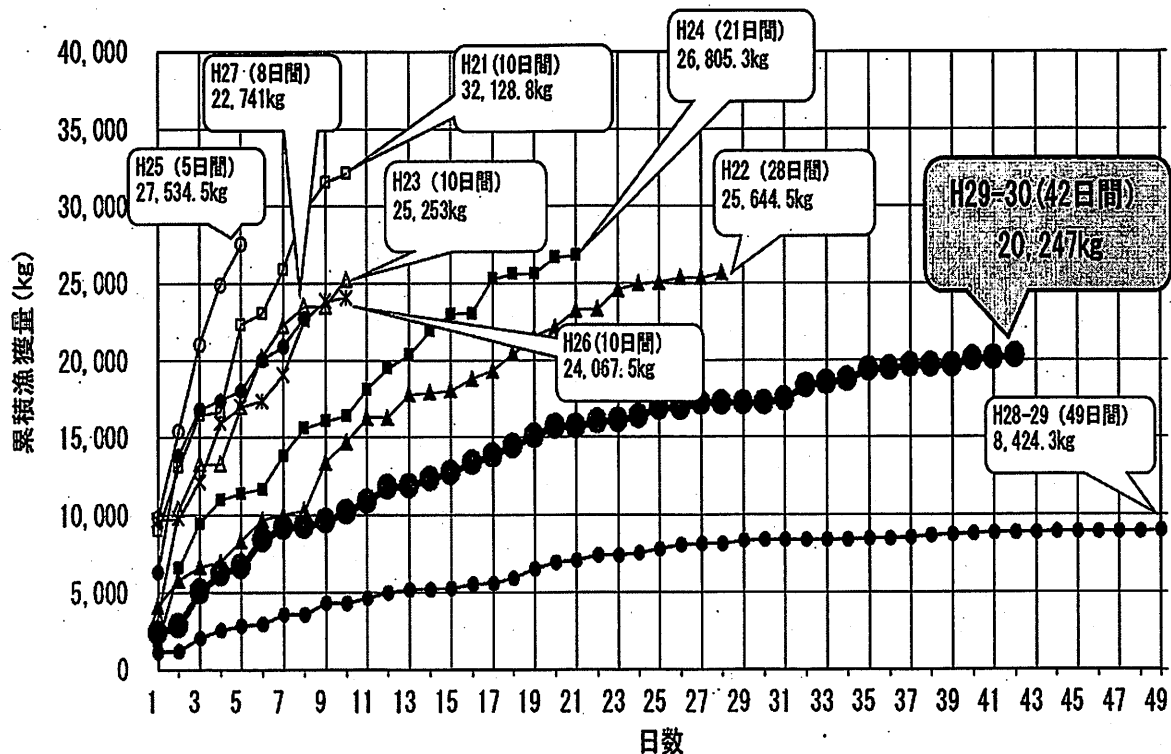


図1 アユ苗の各年度における累積漁獲量

## 2. アユの資源状況

### 【1月期の魚群調査（周回コース）結果】

○1月10、11日に調査。

○不漁であった昨年の1月期調査結果に比べて、約1.8倍であるが、平年比では19%と少ない状況（平年比はアユ流下尾数18.4%とほぼ同じ）。

表1 アユの魚群数

	H30.1月	H29.1月	平年値
小群換算値	66群	37群	339群
平年比	19%	11%	

### 【参考】本年度のアユ流下尾数

	平年	平成29年度	
天然河川	215億尾	5.4億尾	
人工河川	24億尾	38.5億尾	
合計	239億尾	43.9億尾	平年比18.4%



図2 調査水域と魚群数

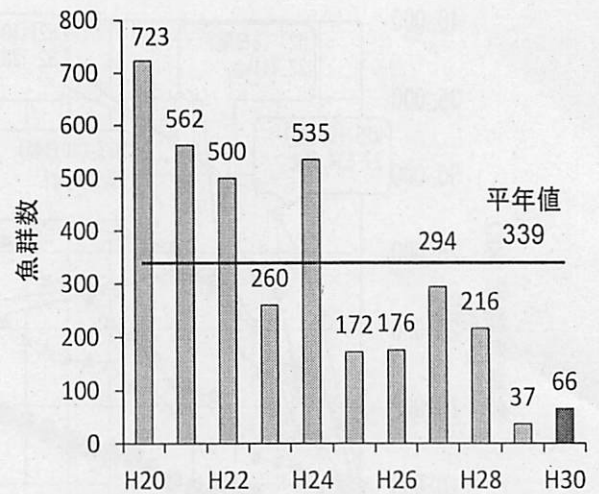


図3 1月の魚群調査結果の経年変化

### 3. 今後の漁獲予想

- アユの漁獲量は、通常、12月から3月頃にかけて減少し、4月に増えはじめ、5月以降に急増。
- 4月以降に漁獲されるアユは、9月生まれの割合が少ない。
- 今季は、アユの流下尾数が平年比 18.4%と少ないことに加え、9月生まれが約8割と多いため、5月以降の漁獲が伸びない可能性。

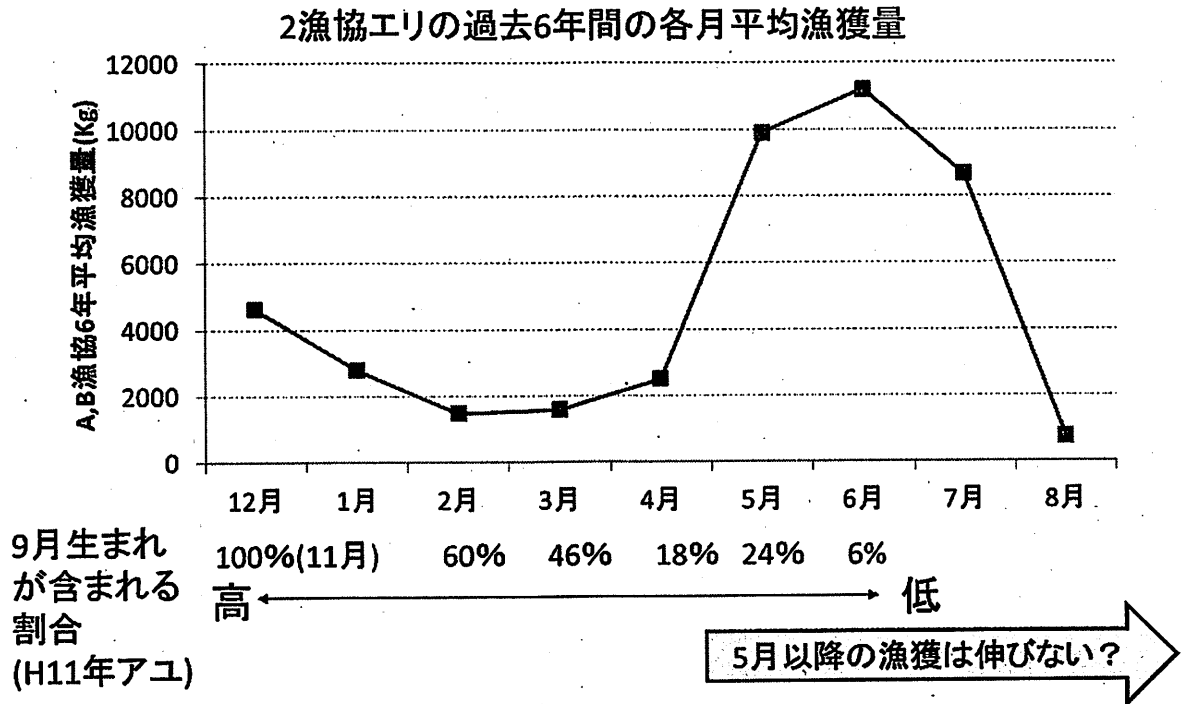


図4 エリ漁獲量の傾向

### 4. 今後の対応

- 引き続き、資源状況を注視していく。
- 昨シーズンのアユの不漁原因について、水産試験場と琵琶湖環境科学研究センターが連携し、国立環境研究所琵琶湖分室、国の水産研究機関の助言もいただきながら検証等を進める。
  - ・浅場や深場のアユの生息状況の調査。
  - ・耳石解析や肥満度調査によるアユの成長や栄養状態の把握。
  - ・植物プランクトンや動物プランクトンなどの餌環境の調査。
- 漁業関係者と定期的に情報を共有するとともに意見交換を実施。